

2026年度入学試験（7月）
大学院デザイン工学研究科

建築学専攻 修士課程
総合2年コース
作品評価型

入学試験問題

[即日設計]

2025年7月5日（土）
13:30～18:30

<解答要領>

1. この問題用紙のほかに、計算用紙（A4版）1枚、トレーシングペーパー（A2版）2枚を配付する。
2. トレーシングペーパーには2枚とも、受験番号・氏名を記入すること。
また、問題用紙・表紙にも受験番号・氏名を記入すること。
3. トレーシングペーパー2枚のうち、1枚は提出図面製作用、1枚はエスキス用とする。
（エスキス用は用紙右上に、エスキス用と明記すること）
4. 筆記用具のほか定規・製図板・方眼紙・メンディングテープは使用可。
テンプレートは、正円・正方形は可、だ円や家具などは不可。
5. 問題用紙、トレーシングペーパー2枚を提出すること。

受験番号	
氏名	

旅するパヴィリオン

パヴィリオンというビルディングタイプがある。主に博覧会などの展示施設を意味する。現在、日本では2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）が開かれていることから、パヴィリオンの話題に触れることも多いだろう。他にも国内外ではパヴィリオンを通じて建築的なチャレンジがなされる機会というのは頻繁にある。

パヴィリオンは、一般的な建物よりも求められる設計条件が緩くなることが多い。基本的には限られた期間のみ使うことが想定される。したがって、一般的な建物にあるものを無くしたり省略することで、一般的な建物とは異なるパフォーマンスを発揮するようなところに面白さがある。朽ちていくことを楽しむ、構造や壁を繊細に作ってゆらゆら揺れる、基礎を省略し船のように水に浮かべる、といったようにパヴィリオンならではのチャレンジが歴史的にはなされてきた。

そこで出題テーマは「旅するパヴィリオン」とする。

敷地は一箇所だけではなく、移動していくことを前提とする。そのこと自体を楽しめるような建築を構想せよ。

設計条件について

- ・何のためのパヴィリオンなのか・どう使うのか・どう移動していくのかといった、ストーリーを積極的に構想し表現してください。（単なる箱型の展示施設ではなく、目的、期間、使い方、場所などを考えてください。）
- ・目安としては、100名程度のシンポジウムやワークショップに使えるようにする。必要なストレージ、トイレなどの諸機能も想定してください。
- ・敷地は二ヶ所以上を想定する。形状や接道、周辺環境などは各自の自由設定とする。
- ・構法、ディテール、素材の使い方、仕組み等に踏み込んで提案する。
- ・建物の延床は約200~300㎡とする。

解答について

- ・設計意図を示す作品タイトルおよび設計趣旨(150字程度)を記載すること。
- ・要求図面の指定はない。平面図と断面図は必ず描くこと。さらに、部分詳細図、パース、ダイアグラムなどを適宜加え、魅力的な状況を伝えること。それぞれの図面の縮尺は各自が選択し、表現すること。
- ・図面の着彩は自由とする。

出題意図について

即日設計という限られた時間内においてパヴィリオンというテーマを与えることで、ある程度自由にコンセプトを考えさえ、その発想力をみる狙いがある。パヴィリオンに建築的な特徴を与える上では、建築の基本的な構成要素を把握している必要がある。したがって、自由な発想力に加えて、基本的な建築の理解力を各図面の完成度を通して判断する。

また、今回は二つの敷地・使い方・それらの関係を自ら考える必要があり、必要な図面や縮尺の設定、パースの構図、ダイアグラムを積極的に考え、かつ、限られた紙面に収めていく必要がある。情報の整理・構築力や、それらを人に魅力的に伝えるレイアウトシートの表現力をみる。